

H29.2.8(水)卒年次生向け講話 要旨(15分)

○これまでの3、4年間どうであったか。充実していたか。途中でやめてしまった人も少なくないが、皆さんはまもなく卒業を迎える。よくがんばった、おめでとう。
今日は、卒業を迎える皆さんに3つの話をしたい。

○まず、夢に関する話。皆さんは入学したときに、ある人は高校生活にあこがれて、ある人はやり直しをしたいという気持ちで希望をもって入ってきたと思うが、卒業までに新しい夢は見つかったか。

一生の夢というほど大きくなくても、例えば、漢字検定で頑張ろうとか、定通総体でがんばりたいというような小目標でよい。それを積み重ねていくことで、成長していくものだし、大きな目標も見つかるものだと思う。

ただし、間違えないでほしいのは、大きな目標=目的と、手段を間違えないこと。

大学に行くというのは、どっち？ 手段ですね。だから、希望の学校に入れた人、それで終わりではない。逆に、進路が思うようにいかなかった人も、それは多分手段なのだから、がんばれば目指すところに行き着くことはできるはず。あきらめないでいただきたい。

そして、一見、目標に見えるものが手段だとすれば、自分にとっての「究極の目標・夢」は何だろうかということを考えていって貰いたい。

○2つ目の話。皆さんの当面の目標は、自立であろう。「自立」の意味は、精神的にも経済的にも独り立ちすること。高校生で経済的に自立するのは難しいが、その前提として必要なのは、律すると書く方の自律だろう。

それは、自分を律する、つまり自分をコントロールすること。皆さんの、自律の力はどのくらいつきましたか？私は、全日制の生徒負けていないのではないかと、大いに自慢してよいところと思っている。

なぜかというと、本校は単位制で、学校に来る来ない、授業に出る出ないは、基本的に生徒に任されている(全日制の生徒には選択の余地もない)。しかし、その自由には大きな責任が伴っていて、途中でやめていく人もいる中で、皆さんはきちんと自分をコントロールできた結果卒業に繋がったのだから、本当に立派だと思う。

○そして、これから精神的にも経済的にも独り立ちしていくには、色々な意味で自分に力をつけることではないか。そのために参考になるかどうか分からないが、最近たまたま読んだ本から、JR東日本の車内販売の会社に就職した茂木(もき)久美子さんの話を紹介し

たい。

○久美子さんは、山形県生まれ。中学時代は中3になってもアルファベットがFまでしか言えないくらい勉強苦手。私立女子高にいてもコギャル系で先生にも反発して、遊んでいた。高校卒業もぶらぶらしていた。

こういう人たちって、学悠館にもいますよね。こういう子は、周りのことを良く分かっていて、繊細な感受性をもっているがために、不登校になったり、やんちゃになったりして自分を守っている子たちなんじゃないかと、私はそう思っている。

ところで、久美子さん。両親が「育て方が悪かった」と心配しているので、就職することにした。

子供のころの憧れは、スチュワーデス。でも現状では無理なので、偶然見つけた新幹線の車内販売員募集の求人に応募した。有名人に会えるのではというような安易な発想だった。

面接では、いつものアゲハ系の格好で受け、周りが全員スーツなので、面接に向かう自覚が足りなかったことに気づいて反省する。

それでも結局、茶髪禁止などの条件付きで採用される。そして、山形新幹線の車内販売員として働くことになった。

すごいのは、それから。久美子さんが配属になった山形営業支店14人は2か月も経たずに久美子さん1人になった。仕事がきついんですね。

でも負けたくないと思った久美子さんは、辞めなかった。毎日憧れの東京に行けるというのもあって、毎日帰りの電車で今日会った人のこと、明日はどんなものが売れるかなどを考えるのが楽しくなったという。

それから、いろいろな工夫をする。例えば、ワゴンをお客さんの足にぶつけて叱られた経験から、普通はワゴンを押すスタイルから引くように変えた。

接客時間短縮のため、つり銭を早く返す。そのため小学校の算数のドリルを買って暗算の訓練をした。そして、左右のポケットに小銭を分けて入れ、代金を受け取ると同時に釣り銭を渡せるように工夫をした。そうすると、山形東京間ふつうは3往復のところ、7往復できるようになったという。

また、考え方も、物売るのではない（物を買うために乗ってくる人は一人もいない）、どうしたら客に喜んでもらえるかを第一に考えるようになったという。

その結果、普通は1日で一人当たりの売り上げ7～8万円のところ、50万円を売ったこともあるカリスマになった。

それでも、サラリーマンなので配置転換はあり、駅の立ち食いソバやで働いていたこともある。なんで花形新幹線から蕎麦屋と泣いているときもあったが、あるとき「この蕎麦屋のそばをどこよりもおいしく作ってやろう」と決心する。そして北海道から飛行機で来てくれる人までいるようになったとのこと。

結局、新幹線の乗客から、あの久美子さんがいないという苦情が高まって戻ることになるのだが、その後、1300人中3人しか居ないチーフインストラクターに抜擢された。

以降講演等にも引っ張りだこ。36歳になった現在では、会社を新たに作って、講演などに活躍している。

茂木さんは、どの仕事もそこにどんな楽しみが見つけれられるか、それが最も大事なことだと言っている。それは、進学していく人でも同じなのではないか。ぜひ、いろんなことに楽しみを見出して、どうせやるなら思い切り挑戦して、その道のプロと言われる人になってほしい。

○そして3つ目の話。そうやって付けた力は、自分だけでなく他人のためにも使える人になってほしい。してもらう喜びより、してあげる喜びの方が、喜びが大きいらしい。

「人間は他のいのちに仕えるとき、自分のいのちが輝く」とマザーテレサは言っている。本校を卒業する皆さんには、ぜひそのような気持ちを持ち続けてほしいと思う。

○この後皆さんに会うのは、同窓会入会式と卒業式の2回。

とりあえず、3月までの期間を有意義に過ごしてください。終わり。

※茂木久美子さんの話は、以下の書籍等をもとに紹介しました。

1)「買わなぐていいんだ。」 茂木久美子 インフォレスト(2010)

2)「その仕事に楽しみを見つける」 茂木久美子 致知2月号(2017)